

2 学習・評価計画 (全8時間 本時4時間目)

次	時間	児童の思い	学習活動	指導事項
0次		・共感することが多いから、私は〇〇さんの作品が好きだな。	○学級文庫の随筆コーナーにある本を読み、随筆により親しむ。 ○冬休み中から、「随筆の種」と名づけた取材メモに、随筆のテーマ(題材)になりそうな物や心に残ったエピソードを書きためておく。 【課題設定】【取材】	○2学期に書いた「10才の夏◇◇と私」と違って、今度は自分でテーマを決めて書くことを知る。
1次	1	・こんな自己紹介文も面白いな。 ・この順序で学習していけば、すてきな随筆が書けそうだな。	○教師が書いてきた自己紹介文兼随筆風の文章を読み、本単元の目標を知る。 ○冬休み中に児童が書きためた「随筆の種」をお互いに交流する。 「授業者との出会い」 ○学習計画表(学習すごろく)を基に、この学習全体の見通しをもつ。	○よい随筆とはどんな随筆かをつかむこと。 ○様々なテーマやエピソードがあることを知る。 ○これからの学習の見通しをもつために、「学習すごろく」を活用すること。
	2	・△△さんのこの書き出しは、とても上手だ。	○2学期に書いたクラスの随筆集を読み直し、エピソードの選び方やよい表現の仕方について話し合う。	○読み手に伝わるよい表現を見つけ出し、それを「随筆のこつ」として名人カードに書きためていくこと。
	3	・Aの文は、具体的な表現がないから伝わってこないな。 ・Bの文は、会話文が入っていて、様子が分かる。	○同じテーマで教師が書いた2種類の例文を比較して、よい点や改善点について話し合う。	○読み手に伝わるよい表現を見つけ出し、それを「随筆のこつ」として名人カードに書きためていくこと。
2次	4	・ぼくは、この前決勝戦で負けて悔しかった「サッカー大会」のことについて書こう。	○「随筆の種」から、自分の書きたいテーマとエピソードを選び、内容の順序を考えながら構成メモを書く。 【構成】	○構成メモを使って、「筆者の思いや考え」、「エピソード」を入れること。
	5	・書き出しは、会話文から始めよう。 ・エピソードを書くときは、効果音を入れれば分かりやすいかな。	○構成メモをもとに、随筆の下書きを書く。【記述】 ※文量の目安は800字とする。	○構成メモをもとに、エピソードをよりふくらませながら、下書きを書くこと。
	6	・「終わり」で語りかけている文が、気持ちが伝わってきてすばらしいよ。 ・ここがよく分からないから、会話文を入れたらどうか。	○自分の下書きを観点に沿って読み直し、必要があれば新たな表現を加える。 ○友達とお互いの下書きを読み合い、相互評価して、さらによいものになるように書き直す。【推敲】	○2つの観点で自分や友達の下書きを読み、よいところや改善点を伝え合うこと。 ①エピソードが具体的に書かれているか。 ②構成の終わりの部分で、筆者の物の見方や考え方が伝わってくるか。
	7	・違う学校の子は、どんな反応をしてくれるかな。まずは、ていねいに清書しよう。	○前時で修正したことを加えて、下書きを清書する。	○読んでくれる相手を意識して、ていねいに清書すること。
3次	8	・この子の随筆は、思いが伝わってくるなあ。エピソードが具体的で、文に迫力があるな。 ・この随筆の勉強をしてよかったな。	○他校の随筆集を読み、自分が気に入った随筆の作者に感想を書いてメッセージカードで送る。 ○これまでの活動をふり返って、クラスの友達と交流する。【交流】	○他校の随筆集を読み、気に入った随筆の作者に、自分がどの点が気に入ったかを詳しく入れた手紙を書く。 ○クラスの随筆集を読みながら、この学習を振り返ること。

活用

おおむね満足できる	支援
・どんな随筆を書くかを考えながら、テーマになりそうなものやエピソードを意欲的に探して書きためている。	・学級文庫に置く随筆は、様々なテーマで書かれたものを用意する。 ・「随筆の種」と名づけたワークシートを用意する。またその活用の仕方を、教師の例文を使って説明する。
・自己紹介文を読んで、これから取り組む随筆の活動に興味をもっている。 ・友達の「随筆の種」を読みながら、自分に生かせそうなテーマやエピソードを意欲的に探している。 ・学習すごろくを見て、今後の学習の見通しをもっている。	・随筆を意識して、1つのエピソードにしぼって書いた自己紹介文を提示する。 ・席を離れてより多くの友達と交流するよう助言する。 ・単元全体が見通せるような学習すごろくを作成し、児童に提示する。
・随筆のこつについて話し合うことで、随筆を書く学習に意欲をもっている。	・「随筆名人カード」を作成し、よい随筆のこつを見つけたら、カードに書きためていくよう助言する。
・「よい例文」と「よくない例文」を比較して、読み手に伝わる具体的な表現を見つけている。	・教師が書いた2種類の例文を提示する。
・構成メモに、自分の考えやそれを伝えるためのエピソードを整理して書くことで、自分の書く随筆の全体像をとらえている。	・これまでの例文が構成メモの段階でどのような形になるかを提示し、イメージをつかませる。 ・3種類の構成メモを用意し、児童が自分の書きたい随筆に合った書式を選べるようにする。
・構成の中の部分は、「随筆名人カード」で見つけた表現のこつを意識しながら、より具体的なエピソードを書いている。	・書き足しや修正が簡単にできるようなスペースを十分にとった下書き用紙を用意する。 ・「随筆名人カード」や教師の書いた例文を参考にするよう助言する。
・推敲の観点をもとに、自分の下書きをよりよいものにしていく。 ・友達とお互いの文章を読んだり意見を聞いたりして、下書きをさらによいものにしていく。	・必要があれば、「随筆名人カード」や教師の書いた例文を参考にして表現を書き加えるよう助言する。 ・様々な友達と下書きを読み合えるような場を設定する。
・よりよい随筆になるように、正しい表記や字形に気をつけて清書している。	・読み手を意識して、ていねいに清書するよう助言する。
・自分が書いた随筆や他校の随筆を読み、この学習の成果を実感している。	・自分の物の見方・考え方がしっかりと表れた随筆を書けたことを実感させ、賞賛する。